

◆実践問題40◆

1回目
2回目
3回目
4回目
5回目

今は昔、御堂の、大納言にて一条殿に住ませ給

ひける時、四月のついたちのころ、日やうやく暮

れ方になりけるに、をのこどもを召して、「御格

子まゐれ」と仰せられければ、祭主の三位輔親が

勘解由の判官にてありけるがまゐりて、御簾の内

に入りて御格子をおろすほどに、南面のこずゑに

珍しくほととぎすの、声鳴きて過ぎければ、殿、

これを聞こし召して、「輔親はこの鳴く音をば聞く

や」と仰せられけるに、輔親御格子をまゐりさし

て、突い居て、「うけたまはる」と申しければ、殿

「さては遅き」と仰せられけるに、輔親かくなま

申しける

あしひきの山ほととぎす里なれて

たそかれどきに名のりすらしも

と。殿、これを聞こし召していみじくほめさせ給

ひて、上に奉りたりける紅の御衣ひとつを取りて

うちかづけさせ給ひつれば、輔親給はりて伏し拝

みて、御格子をまゐりはてて、御衣を肩に掛けて

侍に出でたりければ、侍どもこれを見て、「これは

いかなることぞ」と問ひければ、輔親ありつるさ

まを語りけるに、侍どもみな聞きていみじくほめ

ののしりけり。